



前村幸秀人材育成基金助成事業

コナワエナ高校-久米島高校交流事業

実施報告書2018



目次

I. 行程表	2
II. コナフエナ高校と久米島高校の交流事業	
1. はじめに	3
2. 事前学習	3
3. ホノルル研修	3-4
4. コナフエナ高校での学校生活	4-5
5. コナフエナ中学校訪問	5-6
6. コナ地区・海洋深層水関連施設見学	6-7
7. 23年ぶりのハリケーン襲来	7
8. 終わりに	7
III. 生徒報告書	
比嘉憂乃	8-10
佐久本莉子	11-13
窪優月	14-18

◆派遣期間：2018年8月6日（月）～8月26日（日）

◆派遣先：アメリカ合衆国ハワイ州コナ市（ハワイ島）及びホノルル市（オアフ島）

◆派遣生：比嘉憂乃（園芸科2年）

佐久本莉子（普通科2年）

窪優月（普通科2年）

◆引率：長嶺一司（久米島高校教諭）



ホームステイ後の町長、教育長表敬訪問

I 行程表

日にち	旅程
8/6(月)	久米島空港→那覇空港→関西空港→ホノルル空港 ホノルル空港より専用車にて観光 アラモアナショッピングセンター、パールハーバー、ビジターセンター、パンチボウル、カメハメハ像などを見学 ホノルル市内のホテルにて宿泊（～8/7(火)まで）
8/7(火)	混載車にて移動 ポリネシア・カルチャーセンター見学
8/8(水)	ホノルル空港→コナ国際空港 昨年度の交流生の出迎えを受け、校長車で学校へ コナワエナ高校でホストファミリーと顔合わせ ホストファミリー宅でホームステイ（～8/21(火)まで）
8/9(木)	初めての登校 ホストシスターと高校生活を送る（～8/21(火)まで）
8/11(土)	コナワエナ高校でアメリカンフットボール観戦 その後、ホストファミリーによる歓迎会
8/12(日)	ホストファミリーと休日を過ごす
8/15(水)	コナワエナ中学校に訪問 3つのクラスに対してプレゼンテーションを行う。
8/16(木)	ハワイ島内見学 ハワイ州立自然エネルギー研究機構（NELHA） プウホヌア・オ・ホナウナウ国立歴史公園 コーヒー農園見学 など
8/17～8/19	8/17 州制記念日（Statehood Day） ホストファミリーと休日を過ごす
8/22～8/23	ハリケーン Lane の接近のため、コナワエナ高校が休校。 校長先生のお宅でお世話になる。
8/24(金)	コナ国際空港→ホノルル空港→中部国際空港→那覇空港
8/25(土)	那覇市内にて1泊
8/26(日)	那覇空港→久米島空港

II コナワエナ高校と久米島高校の交流事業概要

引率者：久米島高校教諭 長嶺一司

1. はじめに

海洋深層水の研究施設を持つ米国ハワイ州コナ郡とハワイ郡と久米島町が姉妹都市パートナーシップ協定を 2011 年に締結し、産業や教育の各分野で共同プロジェクトを行うという経緯から、2013 年に久米島高校とコナワエナ高校の交流事業が開始された。今年 2018 年で本交流事業は 6 年目を迎えている。交流事業の内容としては、久米島高校夏季休暇中に生徒 3 名（園芸科 1 名、普通科 2 名）をコナワエナ高校に派遣し、英語でのコミュニケーション能力の向上と、国際理解、異文化経験を通してグローバル社会で活躍できる人材を育成することを最大の目的としている。

2. 事前学習

今年度は、8 月 6 日（月）～8 月 26 日（日）の 3 週間の日程で実施された。内訳としては、オアフ島ホノルルでの研修を 2 泊 3 日、ハワイ郡コナ地区でのホームステイでの研修を 16 日間行った。今年度は、普通科から窪優月さん（2 年）、佐久本莉子さん（2 年）、園芸科から比嘉憂乃さん（2 年）の 3 名が派遣された。派遣費用は久米島町の「前村幸秀人材育成基金」より助成を受けており、生徒の自己負担分は事業総額の 1 割程度となっている。

本研修の事前学習として派遣生徒は英語力向上を目的として、本校英語科の山内祥之教諭、ALT のレイチェルアラカワ先生による英会話講習を数回にわたって受講した。また、海洋深層水とその関連施設について学ぶため、沖縄県海洋深層水研究所の施設等を見学した。

3. ホノルル研修

8 月 6 日、現地時間午前 8 時頃にオアフ島、ダニエル・K・イノウエ国際空港に到着した。空港での入国手続きでは、入国審査官から英語で質問をされたため派遣生徒は緊張している様子であったが、一生懸命に英語で答えようとしている姿がとても印象的だった。空港にはツアーガイドの方が迎えに来てくださり、専用車で最初の目的地であるパールハーバーまで移動した。パールハーバーでの見学では太平洋戦争に至った経緯や、当時の日本の国策や軍事戦略、そして真珠湾攻撃の詳細などが米国の立場からの展示や説明などがなされていた。その後、実際にアメリカ海兵隊が運用するボートにのり、沈没した戦艦アリゾナの上に建設された慰霊碑などを見学した。

ホノルル滞在 2 日目には、午前中にホノルル市内、アラモアナショッピングセンターを見学し、国際的な観光都市であるホノルルのダイナミックさを肌で感じる事ができた。午後からは、専用車に乗りポリネシアカルチャーセンターに移動し、太平洋地域における島嶼地域のそれぞれ異なった文化や歴史に触れることができ、とても印象的だった。



パールハーバーでくつろぐ派遣生 3 名



空港で笑顔の 3 名

4. コナワエナ高校での学校生活

ハワイ島西部のコナ地区、キャプテンクックと呼ばれる地域に位置するコナワエナ高校は、フレッシュマンからシニアまでの生徒数が 800 名のアメリカの公立高校の標準からすると比較的小さな高校である。日系、ヒスパニック系、ポリネシア系の生徒や、それらの地域から移動してきた生徒も数多く在籍している。コナ地区の中で最も歴史の古い学校である。学校で働く教師にはこの学校を卒業した者も多く、母校で働くことにとても誇りを持っていた。

コナワエナ高校はスポーツも盛んであり、特に女子バスケットボールチームなどは数々の大会で優勝経験のある強豪チームであった。滞在中の最初の土曜日にはアメリカンフットボールの試合、翌週の金曜日には女子バレー部の試合が行われていた。特にアメリカンフットボールの試合は、アメリカを代表する人気スポーツであるということもあり、地域の人々が約 2000 人も訪れとても熱狂的な応援を繰り広げていた。

滞在中の 3 週間はコナワエナ高校の生徒のご家族、職員の方々の協力の下、ホームステイさせていただき、実際のアメリカの高校での学校生活や、生活様式を体験した。今年度のホストファミリーは前年度の 11 月に久米島高校にホームステイをした生徒、そして今年度に久米島に来る予定の生徒が引き受けてくださった。久米島高校の派遣生たちはホストシスターと常に行動を共にし授業を受け、部活動に参加し、また放課後は遊びに出たりと充実した毎日を送っていた。今回引き受けてくださったホストファミリーの全員が日本語の授業を履修しており、派遣生達は自分たちの母国語である日本語が第 2 言語として米国の高校で学ばれていることに感銘を受けているようであった。私自身も、コナワエナ高校の教頭先生に頼み込み様々な授業を見学させていただいた。英語(国語)の授業においては、あらかじめ宿題として与えられていた本の内容に関して、教師が一方的に解説をするような場面はほとんどなく、大部分が生徒間のディスカッションに充てられていたのが興味深かった。80 分の授業時間の後半 30 分は、授業のまとめとして電子黒板に提示された設問を、生徒は一人一人に配布されたノートパソコンを使用しオンライン上でエッセイ形式に答えを

打ち込み、すぐさまそれをクラス全体で共有するような構成となっていた。生徒一人一人が授業に積極的で、課題をきちんとこなしている様子にはとても驚かされた。米国の教育では初等教育の段階から自分の意見を人前で表現する力、いわゆるパブリックスピーキングの能力にかなり重きが置かれていることもあり、授業の中での生徒の発言はどの授業においてもとても活発であった。



コナワエナ高校ウェルカムパーティ①



コナワエナ高校ウェルカムパーティ②



始業式の様子



カエルワコナ市のダウンタウン

5. コナワエナ中学校訪問

滞在 2 週目には、高校のすぐ隣に位置するコナワエナ中学校に訪問し、久米島高校の派遣生 3 人が沖縄や久米島を紹介するプレゼンテーションを 3 つの授業で行った。準備をしていたスクリプトはすべて英語で書かれており、発表前日にはコナワエナ高校の図書館で最終確認等を行い万全な態勢で発表に臨んだ。決して完璧ではない英語での発表ではあったが、コナワエナ中学校の生徒は熱心にプレゼンテーションに耳を傾けていた。派遣生も初めのうちは緊張した面持ちであったが、回数をこなすごとに上達し最後には拍手喝さいを浴びていた。現地の生徒は、プレゼンテーションのスライドに映し出される美しい久米島の海や食べ物の画像に感動した様子で、毎回のプレゼンテーションの後にはさまざまな質問がさく裂した。派遣生達も英語のアシスタンスを受けながらも堂々と質問に答え、さらに

は日本とアメリカの文化や習慣の違い等にも議論が広まり、中学生との交流会は大成功に終わった。



プレゼンテーションを行う生徒



中学生との記念写真

6. コナ地区・海洋深層水関連施設見学

8月16日（木）はフィールドトリップに参加するため、9時に学校のスクールバスのターミナルに集合し、専用車にて出発した。最初の目的地は、海洋深層水関連施設へ向かう幹線道路沿いの溶岩流の影響でできた大きな洞窟のような場所であった。辺り一面に溶岩が堆積している平原に、巨大な穴が開いており自然の雄大さを感じることができた。その後、NELHA（海洋深層水関連施設）を訪問し、担当者の約30分程度の施設に関する説明等を受けた後に、広大な施設を専用車で移動して回った。とりわけ印象的であったのが、NELHAの広大な敷地内に、公立のチャプタースクールが運営されており、それぞれの学生が学際的な教育、研究活動に取り組んでいた。ハワイの海洋深層水関連施設は、久米島の施設同様、周りに水産関連の会社の工場が集まっており、地域産業の活性化に一役買っていることがうかがえた。その後は、UCCのコーヒー農園や祈念公園などの視察を行い、その日の全日程を終了した。



NELHAの前で記念撮影



NELHAの中の様子、大きな生け簀がある



ハワイの海洋温度差発電施設



スクールにて

7. 23年ぶりのハリケーン襲来

8月24から26日まで、ハワイ州にハリケーン「Lane」が接近し、州内の公的機関はすべてシャットダウンされた。実はハワイ州にとってこのハリケーンの接近は23年ぶりの出来事であり、現地メディア等は連日大きく報じていた。私達は、23日からは高校が休校となったため、それぞれのホストファミリーの家で過ごすこととなった。帰国日前日がハワイ島に最接近する予報であったため、帰国までの2日間は私と派遣生3人は、校長先生の別邸で過ごすこととなった。しかし、実際にはいささか悪天候ではあったが、暴風雨や激しい雨などはほとんどなく、ハリケーンの影響はほとんど感じられなかった。台風慣れきっている私たちにとって、この程度のハリケーンで公的機関が封鎖になるような状況はとても信じがたいことであった。

8. 終わりに

これまで、世界で最も洗練された海洋深層水施設を有する両地域の交流は、地域産業の振興だけでなく、教育分野においても大変有益な影響を与えてきた。2013年度から開始された本校とコナワエナ高校との交流プログラムは今年で6年目を迎える。実際に今年度のプログラムの引率をさせていただき、現地に滞在する中で互いの結びつきがますます強まっていることを、様々な交流の機会を通して強く感じる事ができた。今年度の派遣生3人は、滞在中に英語でプレゼンテーションを行い、ホームステイを通して異文化的な日常を体験することができた。このことは今後の彼ら一人一人のキャリアの発達において大変肯定的な影響を与えると確信する。今後、将来の久米島のために国際的な広い視点や幅広い教養を有する人材になることを願っている。

最後に、本交流プログラムに尽力してくださった大田治雄久米島町長、吉野剛教育長、久米島町職員や、前村幸秀人材育成基金の関係者の方々、本交流プログラムの実施に携わったすべての方々に心より感謝を申し上げたい。

III. 生徒報告書

久米島高校園芸科 2 年比嘉憂乃

1. 応募理由

私がこのプロジェクトに応募した理由は、将来海外で活躍する職業に就こうと思っているからです。しかし、私は元々英語が苦手で、海外に対する気持ちはありましたが、海外に行ったことはなく、どのような場所なのかわかりませんでした。だから、この交流事業を通して、海外について知り、英語力をつけたいと思い、応募しました。

2. ハワイ・ホノルル研修

8 月 6 日に久米島を出発しました。時差が 19 時間もあるので、ホノルル空港に到着したのも 8 月 6 日でした。初日の流れです。USS Bowfin Submarine museum & Park、カメハメハ大王像、イオラ二宮殿、Aloha Tower Marketplace Magic Island を見学しました。

USS Bowfin Submarine museum & Park ではアメリカがどのような被害にあったのか分かりやすく映像で学ぶことができ、とても勉強になりました。その後アリゾナ記念館行きの船に乗ってアリゾナ記念館まで行きました。ですが、工事中のため残念ながら中に入ることはできませんでした。また、このような機会があれば行きたいと思いました。

2 日目はポリネシアカルチャーセンターに行きました。カヌーショーを最初に見て、その後に 6 つの村 サモア・アオテアロア・フィジー・ハワイ・トンガ・タヒチ村の見学をしました。6 つの村の様々な文化の違いや食べ物の違いなど学べ良い経験ができました。

3. ハワイ島到着

8 月 9 日、ドキドキしながら、コナ国際空港に到着しました。校長先生と去年の交流生がお迎えに来てくれました。先生も含め 4 人にレイが声をかけてくれました。

コナウェナ高校に到着後、ホストファミリーと顔合わせをしました。私の交流生はヤマグチファミリーでした。2 人家族でとても明るい家庭で楽しかったです。母親が日本人で英語ができない私にも優しく接してくれ、私を家族のように暖かく迎えてくれました。私のホストシスター、HURA と水泳をやっていて、練習メニューがなんともきつそうでした。水泳の時に私も一緒にストレッチをしました。見た目は簡単そうでしたが、実際やってみると意外とハードで難しかったです。次の日には、日頃あまり運動をしないせいか所々筋肉痛になり、歩くたびに体全体が痛くなり歩くのが大変でした。日頃から運動することは大切だと思いました。

8 月 11 日に 3 人の交流生とホストシスターのみんなでパーティーをしました。みんなでご飯を食べて、その後、バレーボールをやって盛り上がり楽しかったです。次の日、学校が終わった後ハワイの結婚式を見る機会がありました。日本とハワイの違いを知ることができ、勉強になりました。その後、ラグビーの試合を見ました。私がお世話になったコナウェ

ナ高校は残念ながら、負けてしまいましたが、いい試合を見ることができました。また、私もチアリーダーのようにチームを応援したいと思いました。



コナ国際空港



チアリーディングの様子

4. ホストファミリーとの交流

ホストファミリーのためにゴーヤーチャンプルーを作りました。ホストファミリーはゴーヤーを食べにくそうにしていたのですが、作ってみてうまくできたのでよかったです。また、ホストシスターの友達に海に連れて行ってもらいました。波が高く何度も来たので楽しく過ごせました

みんな泳ぐことが上手なため、足がつかない深さのところまで泳いでおり、すごいなと思いました。



お世話になったホストファミリー



歓迎パーティの集合写真

5. 感想

私は、このプロジェクトを通しコミュニケーション能力やライティング力が身に付いたと感じています。当初は、英語で話すことが難しく、また、みんなが早口で話したりするため、ついていくのに精一杯でした。しかし、時間がたつたびに慣れていき後半はみんなとたくさん話すことができました。私は、英語が苦手なため知っている単語をくっつけてなんとか話しました。でも私のカタコトの英語を真剣に聞いてくれるのでうれしかったです。また英語が話せない私でも出来たので、たくさんの人にチャレンジしてほしいです。この経験を将来生かせるようにしたいです。

久米島高校普通科2年佐久本莉子

1. 応募理由

私がこのプログラムに参加した目的は、日本とは全く違う行事や文化を直接体験し沖縄の文化を伝えなかったからです。また私は将来、海外で看護師として働きたいという夢があります。だからこのプログラムに参加し、英語力の向上させたいと思い応募しました。

2. オアフ島での二日間

迎えたハワイ出発日、私は楽しさと不安でいっぱいでした。ハワイに着くと最初の二日間はオアフ島で過ごしました。オアフ島では、パールハーバーやポリネシアカルチャーセンターの観光に行きました。ポリネシアカルチャーセンターには、様々な人種のダンスや楽器などがありそれを体験することができました。また、イブニング・ショー「HĀ: ブレス・オブ・ライフ」というショーを見ました。このショーは、物語になっていてトンガ、サモア、フィジーなどのポリネシア文化を通して学び、青春、死、子供の誕生という人生で誰もが経験する出来事を元に作られていて文化や言葉が分からなくてもファイヤナイフダンスやタヒチアンなどで誰にでも理解できるように作られていました。とても感動的な物語でダンスも迫力満点で凄かったです。



カメハメハ大王銅像前

3. ハワイ島

二日間が無事に終わり、ハワイ島に着くとコナフエナ高校の校長先生や生徒が出迎えてくれました。出迎えられてすぐにハワイ伝統のレイをかけてもらったりハグなどをしてもらったり最初は驚きましたが外国にいることをとても実感しました。学校に着くとホストファミリーが出迎えてくれました。その後は各自ホームステイ先に移動しとても不安だったホームステイが始まりました。

4. ホストファミリー

私は約2週間の間、Masunaga ファミリーにお世話になりました。私のホストシスターは同級生でとても優しくしてくれました。また、ホストシスターは日本語の授業を受けていて会話中に私分からない表現があると簡単な言い方にしてくれたり教えてくれました。ホストファザーは自宅の庭にコーヒー豆を育てており、その豆を使ったコーヒーを実際に飲ませてくれました。ホストマザーは裁判官の仕事をしていてあまり一緒に過ごすこと

は出来なかったけど、休みなどの日は外食に連れて行ってくれたりとても明るい人でした。ホストシスターの姉はオアフ島で仕事をしており、私がホームステイしているときに少しの間帰ってきたことがありました。その時も日本語であいさつや色々質問もしてくれてすぐに打ち解けることができました。

5. コナフエナ高校

滞在中はホストシスターと一緒にコナフエナ高校に通いました。コナフエナ高校では、日本の学校とは全く違い生徒がピアスや化粧、露出が多い私服を着ている人がいて最初はとても驚きました。一番驚いたことは、授業の受け方です。生徒のほとんどが授業中にお菓子を食べていたり音楽を聴いていたりしながら受けていました。しかし、日本よりも課題が多いにもかかわらず必ず全員やってきていて、授業の時間が80分という長い時間なのに寝ている人が一人もいなかったのでもって感心しました。一番嬉しかったことは、バレー部の試合が見れたことです。私はバレーがとても好きで日本以外の国のバレーの練習や試合にとっても興味がありました。今回試合を見てみて、あまり日本との違いは感じませんでしたが、試合中にも限らずお弁当を食べていたりしていてとても驚きました。また、体育館に入る際はプレーヤーはシューズを履きますが観客などはそのまま靴で出入りしていました。驚くことがたくさんあったけど日本とは全く異なる所が知れたので良かったです。



コナフエナ中学生と記念撮影

6. コナフエナ中学校

私達はコナフエナ高校の隣にある中学校にも行きました。中学校では私達がハワイに行く前に作成していた久米島の観光地や久米島高校についてのパワーポイントを3つのクラスに発表しました。最初はとても緊張していて最後までやり遂げられるか心配でしたが、全部完璧にできたので良かったです。また、中学生はみんなとても明るく、元気があり質問などをたくさんしてくれて和むことができました。最後には日本の文化の一つである折り紙を教えました。みんなとても器用でなんなく作ることができました。とても貴重な経験ができとてもうれしかったです。

7. 休日

休日はホストシスターとホストファザーと一緒に行動をしていて買い物や有名な観光地に連れて行ってくれました。買い物をしていて一番驚いたことは、一つの商品の種類がとても多いことです。シリアルが売っているところに行くとシリアルの種類が日本の何十倍もありました。シリアルだけではなくチョコの種類もとても多くタバスコのチョコなどがあ

りました。日本とは違い、ハワイは全部の食べ物に多様な味がありとても興味深かったです。また、フリーマーケットに行った時も飲んだことのないお茶や見たことも食べたこともない果物を見ることができました。その後は映画を見に行きました。映画は英語だったのですがすべてを理解することはできなかったけど内容が言葉なしでもわかるようになっていて楽しむことができました。観光地では滝を見に行ったり「BIGISLAND」というチョコ専門店で連れて行ってくれたりしました。そこでは見たことのないチョコの組み合わせをしているものがありました。例えばさきいかをチョコにつけていたり、ポテトチップスとチョコの組み合わせもありました。日本ではない組み合わせだったのでさすが自由の国だなと思いました。

8. 感想

今回ハワイに行ってみてリスニング力やコミュニケーション力はもちろん今までの自分の考えや価値観が大きく変わったことを自分自身でも実感しました。カルチャーショックもあり戸惑うことも多々ありましたが全然知らなかった文化や逆に知っている文化をよりくわしく知ることができ、とても貴重な経験になりました。このプログラムに協力してくれた久米島町の方、先生方、両親、そしてハワイ滞在中にお世話になった人すべての人に感謝を忘れず、この経験をこれからの学校生活や私生活に生かしていきたいです。このような貴重な機会を下さり本当にありがとうございました。



久米島高校普通科2年 窪優月

1. 応募理由

私が今回この交流事業に参加した理由は2つあります。1つ目は、私自身が英語を好きなこともあり外国に行って現地の方と交流し英語力を高めたかったからです。私は小学生の頃留学を経験しましたが、当時は英語を徹底的に勉強していなかったため、外国の方とコミュニケーションが全くできなかった苦い思い出があります。その悔しさを今回の交流事業につなげて英語力を今以上に身につけたいと思いました。

2つ目の理由は、違う国の学校生活を体験したかったからです。アメリカのドラマを見たとき、学校生活が日本とは大きく違い、カフェテリアがあったりスケートボードで登校など驚くことがたくさんありました。そのようなカッコいいアメリカの学校生活を実際に送ってみたいと思いました。以上の二つの理由でぜひこの交流事業に参加したいと思い応募しました。

2. オアフ島

ハワイでの3週間の旅は長いようで短い、とても充実した日々を送りました。毎日が新しい発見で、沖縄や日本にはない独特の雰囲気や文化に感動することが多かったです。ハワイに着いてからの2日間はオアフ島で過ごしました。リゾート地で有名なオアフ島では有名な場所にたくさん訪れました。ハワイの中では都会の方ということもあり、きれいな町並みや大きなビルなどを見物することができ、楽しかったです。

その二日間の中で私たちはパールハーバーとポリネシアカルチャーセンターという場所に訪れました。

初日に訪れたパールハーバーでは真珠湾戦争について詳しく学ぶことができました。目の前に海が広がり、大きな潜水艦や有名なアリゾナ記念館が海上に浮かんでいました。また、戦争について上映する映画館、建物の中には資料やプラモデルもありました。現地には多くの観光客でいっぱいでした。真珠湾戦争については中学生の頃に習いある程度のことは知っていましたが、実際に爆弾が落ちた場所、被害を受けた船を見るとどれだけ悲惨で大きな戦争だったかを身に感じることができました。資料展示では当時飛行機に乗っていたパイロットの名前と写真、経歴など詳しく載っていました。英語ですべて説明されているので理解するには多少苦しみましたが、その中の一文と被害を受けた写真だけを見ても悲惨さがよく伝わりました。その痛々しい出来事を観光客の方たちはじっくりと真剣な眼差しで見っていました。その姿を見て感じたことは、外国の方は戦争についてとても関心があるということです。小さな男の子や戦争を経験したであろう高齢の方でさえも、真剣に見物している事に自分の未熟さを感じました。日本では戦争についての知識と事実を自分から学ぼうと

いう人は少ないと思います。私も今まで戦争の話はたくさん聞きましたが、自分から質問をしたことも無く、記念館に行ったこともありませんでした。そうやって今まで戦争について学ぶことに消極的だった自分を反省しました。また、今回パールハーバーを訪れたことで戦争についての関心が高くなり、改めて戦争の事実を知ることが出来たので、いい経験になりました。



パールハーバーで記念撮影



パールハーバーにある記念碑

二日目に訪れた場所はポリネシアカルチャーセンターという所です。この施設ではブリガムヤング大学ハワイ校の留学生が多く働いており、観光客向けに施設を案内したり、通訳をしたりなどの仕事を行います。多くの留学生がここで働く理由は、仕事をしながら学業の両立がしやすく、また、奨学金を確保することができるからです。

ここでは、ポリネシアの島々の伝統文化をより近い距離で見ることができました。例えば、ボートに華やかな衣装をまとった人たちが乗っており盛大なショーを披露していました。その中の歌はすべてポリネシア諸島の言語だったので聞き取ることができませんでしたが、観客をも巻き込む演技に感動しました。特に私が興味を持ったエリアはアオテアロア村という場所です。ニュージーランドの民族の生活を再現したこの村で、私達はインクのタトゥーを腕に貼ってもらいました。“家族”と“強さ”の2種類の柄がありカッコ良かったです。



ポリネシアカルチャーセンター



タトゥー入れました！

このように、学生を中心に国の伝統文化を伝えていく活動は久米島にも必要だと思いました。久米島にも多くの文化が存在しますが、それを伝える人材が少なく、広範囲での活動が難しい状況にあります。ポリネシアカルチャーセンターを訪れて、伝統を伝えることの大切さに改めて気づくことができました。

3. ハワイ島

3日目にはついにハワイ島へ到着し、待ちに待ったホームステイがスタートしました。ハワイ島はハワイ諸島の中で最も大きな島で地元の人には“Bigisland”と呼ばれています。比較的田舎のコナと、都会のヒロという二つの地域が存在します。久米島高校からの派遣生が毎年訪れているコナは、少し久米島に雰囲気似ており、気候もとても変わりやすいです。私がお世話になったホストファミリーは過去に何度か久米高生の受け入れを経験している Nakamoto 家でした。久米島でも、去年ホストマザーの Heatherさんとホストシスターの Kyndra に会っていたので、あまり緊張せず関わることができました。

私のホストファミリーはお出かけすることが好きでいろんな場所に連れて行ってもらいました。週末には有名なビーチやヒロに連れて行ってくれたり、ウェルカムパーティーも開いてくれました。また、ドライブにも行き、大きな滝を見に行ったり、ハワイのソウルフードであるロコモコとシェーブアイスを食べたので、とても満喫できました。私が一番印象に残っているのはダンスパーティーです。キリスト教の教会の中のフロアで開かれました。多くの学生と成人の人たちが集まり、80年代のアメリカを連想させるようなドレスを着ていたのもとてもおしゃれでした。また、飾りも凝っていてきれいでした。ハワイの人たちはみんなダンスが踊ることができるので私もうまく踊れるか不安でしたが、ホストシスターのいとこの男の子と一緒に踊ってくれたので、楽しむことができました。日本ではダンスパーティーなど日常的にあまり無いと思うので日本にもこのようなダンスパーティーがあればいいと思いました。

平日はホストシスターとコナワエナ高校に通いました。日本と違い制服がではなく、私服で通えるので楽でした。またスケートボードで登校する生徒もいたのでかっこいいなと思いました。コナワエナ高校では、午前は2コマの授業、午後は1時間というとても短い時間割でした。そのため、下校時間も2時半くらいととても早かったです。ただ、1コマの授業時間は長かったです。休み時間は10分程度、長くて30分でした。30分間の休み時間では、生徒たちと一緒にお菓子を食べながらお話をして距離を縮めることができ、嬉しかったです。その中にいたとある男子生徒が毎日、いろんな種類の日本のお菓子を持ってきたので、ハワイで日本のお菓子がたくさんあることに驚きました。明太子マヨネーズのあられをその男の子はとても気に入っていました。

授業は自由なところもあり、飲食しながら、携帯を触りながら授業を受けていたので驚きました。ですが、みんな先生の話は真面目に聞き、質問があれば挙手して積極的に聞くなど授業に対する意欲がすごいと感じました。グループ活動では初めて話す子でさえも、たくさん相談しながら問題を解いていたので、人と人の壁をあまり感じませんでした。また、生徒はノートをほぼ持たずに、マイパソコンでメモをしたり調べ学習をしていました。高校生のうちからパソコンを使い慣れておくのは将来的にも役立つと思うのでメリットだと思いました。

印象に残っている授業は日本語です。実際に日本人が教えるわけではなく、日系人の先生

が教えていました。体を動かしながらみんなで輪になって日本語ゲームをしたのがとても楽しかったです。みんな一生懸命日本語を勉強して話してくれたりするので積極的だなと感じました。私もみんなのように積極的に話しかけられるように頑張りたいと改めて思いました。



ホストファミリーとのカヌー体験



コナフエナ高校の授業で記念撮影

今回の研修で私はある思いを強くしました。それは、文化の継承です。ホストシスターである kyndra はフラダンスを習っており、彼女自身フラダンスを愛しています。また、その子の通っている教室ではたくさんの生徒がいました。ハードな練習でも楽しそうに踊っていた姿が今でも忘れられません。ハワイの文化を存続させようという思いが強いなと感じました。久米島では伝統文化を継承しようとする子供たちが年々、減少しつつあります。私は現代版組踊「月光の按司ガサシワカチャラ」という団体に所属しています。それは島の子供たちによって繰り広げられる、久米島の歴史を伝えるためのミュージカルです。地域の人や島外からとても評判が良いのですが、参加人数が年々減少している状態に陥っています。文化を継承することの大切さを中々理解してもらえないことに残念な気持ちになります。なので、ハワイの子達のように熱い思いを持って参加してくれる若い人たちが久米島にもたくさんいたらいいなと感じました。そのために、今までよりも活動をもっと頑張ろうと思いました。

4. まとめ

この交流事業において、自分が想像していたハワイの生活と実際に経験した生活との違いを知ることができました。食生活では、夕食にちゃんとしたご飯としてポテトチップスが出てきたことに、とても驚きました。日本ではあり得ないメニューだったので、太らないかとずっと心配でした(笑)コストコやスーパーマーケットでは、建物、買い物かご、食品がすべて大きかったのでインパクトが強かったです。また、具材よりもお菓子を多めに買っていたので、ごはんよりもお菓子をたくさん食べることに気づきました。

日常生活ではコミュニケーションに多少つまづきました。相手の話していることは理解できましたが、自分が話すときは焦ってしまい、習っているはずの文法でさえも、口に出す

のができないときもありました。ですが、焦っているときは「ゆっくり話していいよ。」と優しく対応してくれたので、落ち着いて話すことができました。自分は英語ができるほうだと少し自信を持っていた私ですが、今回で自分の未熟さと留学経験の少なさをよく知ることができました。これからは今までよりさらに英語を勉強して、また留学をたくさん経験し、自信が持てるようになりたいと思いました。新たな目標を達成するためにも、努力していきたいです。

私たちが今回ハワイ研修に行くことができたのも、久米島町役場のみなさん、学校の先生方、ハワイで受け入れてくださったホストファミリーの一家、コナワエナ高校の皆さんなどたくさんの方が支えてくださったおかげです。また、前村支援金によって金額の 9 割を補助してくださったことに、とても感謝しています。これからは今回得た留学の知識を生かし、日々頑張っていきたいと思います。私を派遣してくださり本当にありがとうございました。



コナワエナ高校で知り合った友達



いただいたおやつ



ホストファミリーとの集合写真